

蓄積した経験や知恵こそ宝!



やまぐちかつし
山口勝士が問う

高齢者がまちづくりの中核では

Q 高齢者がいきいきと活躍するまちづくりを考えると「高齢者に元気に活動してもらう」ではなく「高齢者こそ町の中核」という元気な町をつくりたいが。

A 長生き支援課長 22年後には65歳以上が5割程度になることを見据えたとき、今から「高齢者が支える町」を目指すべきと考えます。県では「地域活躍施策」として、積極的に地域デビューを推進するための取り組みやモデル事業も実施しています。当町でも今後、高齢者が蓄積した経験や知恵をまちづくり・地域づくりに生か

せる事業を、課を越え連携して展開していきたいです。

小中学校教育の充実を

Q 今後のまちづくりにおける学校の統廃合など、「すぐれた教育」環境づくりを抜本的に考えるときでは。

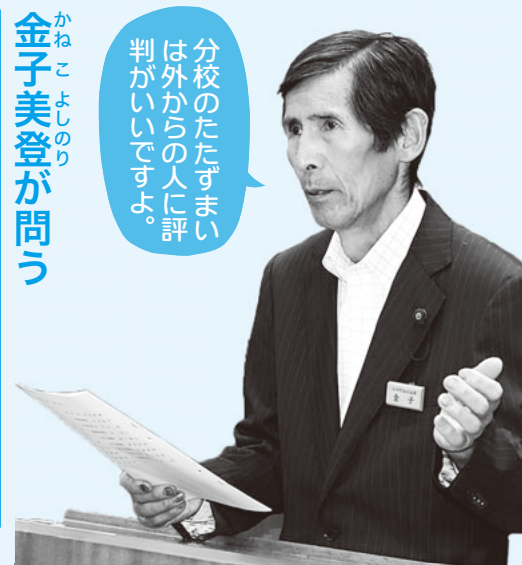
A 学校教育課長 今後の学校のあり方は、町の重要課題の一つであると捉えています。「子供たちの教育にとつてどんな学校がよいか」という視点で、小中学校のあり方の改革に向けて取り組んでいます。現段階でどこまでという期限設定はしていないのか。

A 学校教育課長 大変重要な問題だと捉えています。明確にどこまでにするという計画は立っていません。



県では高齢者の活躍を応援する、さまざまな冊子を発行しています。

分校のたたずまいは外からの人に評判がいいですよ。



かねこまみのり
金子美登が問う

旧下里分校の今後については

Q 旧下里分校は廃校後、NPO法人「霜里学校」が管理を請け負い、さまざまな活動をしているが、町はどう評価しているのか。

A 政策推進課長 霜里学校の活動は「有機野菜塾」や「マイ米田んぼ」の開催、貸し農園「桜ファーム」の運営をはじめ、大学や企業との連携事業への参画や本年度で4回目を迎えた「下里さくら祭り」で約3500人の来訪者を集める等、認知度も上がっている。さらに、国の地方創生事業の交付金を活用した旧用務員棟を

「分校カフェ MOZART」に衣がえしてオープン。また、移住サポートセンターのサテライト施設として、移住希望者の相談受付にも対応する等、町としても高く評価しているところだ。

Q この旧下里分校と霜里学校との使用貸借契約も本年度で契約期間終了となるが、今後どうなるのか。

A 政策推進課長 既に霜里学校から契約の更新希望の申し出がありました。町としては、これまでの活動が評価できる内容であり、「分校カフェ MOZART」での新たな取り組みも始まったばかりであること、また何より地域住民との協調性に優れていることから、引き続き霜里学校を相手方に使用貸借契約を更新していきたいと考えています。



下里さくら祭りは天候に恵まれ、約3500人が来訪しました。

人口抑制には女性が生きて活躍することが大切。



たなかりこ
田中照子が問う

女性活躍には子育て支援を

Q ココットは、来館者数も増え、土曜日には父親の利用もあつたとのこと。新たに「一時預かり事業」を開始したが、子育て世代への周知は。

A 子育て支援課長 ココット利用者に直接配布・町広報回覧で全戸にお知らせしました。町ホームページや子育て支援センターつうしんにも掲載しました。

AQ 現在、女性区長は1人である。女性区長誕生を進めるための取り組みは。防災地域支援課長 人口減少や少子高齢化が進む中、町の男女共同参画

プランで、行政区等、地域活動の組織など女性の参画の啓発を行なうとしています。

当町の人口減に対する見通しは

Q 5年前、当町は県で消滅可能性都市2番目であつた。今回も新聞社の分析結果では同様となっている。今後の町の可能性は。

A 政策推進課長 分析によると消滅可能性都市とされた全国896市区町村のうち、約8割が人口減がより加速するとしています。当町は、5年前推計された2040年の総人口1万7212人にに対し、今回は2万263人で持ち直していると言えます。この結果を3年間の成果と捉え、引き続き人口減対策に資する各種の取り組みに邁進していきます。



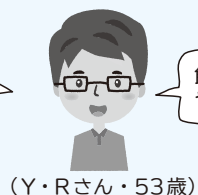
働く女性の出産退職者は年20万人。子育て支援の充実が大切。



変わりゆく町への希望



町中を安心して歩ける歩道



館川にルアーフィッシング場やキャンプ場



広々した芝生の公園

硬式野球が可能なスタンドつき
野球場